

〈研究授業〉

第七十回県研究授業を終えて

青豊高校 岡部 桂子

福岡県の最東端、青豊高等学校におきまして、県研究授業をさせていただきました。第七十回という節目にあたり、採用されて間もない私に務まる役目か恐縮いたしました。生徒にも励まされながら何とか無事に終えることができました。簡単ではありますが、内容を振り返りご報告させていただきます。平成三十年告知の高等学校学習指導要領を踏まえ、書道部会の先生方に多大なご尽力をいただき、検討を重ね、何とか授業実施までたどり着くことができました。今回は、特に従来の指導法に加えICTを効果的に活用する方法を盛り込んだ授業展開を検討しました。

一 概要

実施学校 福岡県立青豊高等学校

指導者 教諭 岡部 桂子

実施日時 令和四年十二月七日 水曜日 五・六時限

実施学級 第一学年一・二組二十八名

実施場所 本校書道教室

単元名 漢字の書（行書）の学習「風信帖」

本時の学習内容

・風信帖「妙門」の臨書において、筆脈を通して複数の文字を書くという行書の用筆・運筆を学ぶ。

・ICTを活用し、生徒自身の揮毫動画と範書動画を比較検証し、墨の含ませ方、運筆の速度、筆脈を実感し、表現に活かす。

二 本研究授業について

本単元において、風信帖を学習するうえで、王羲之や顔真卿の書との類似点や、作品全体の感興や意図・字形・線質との関わりに関心を持ち、自らの意図に基づいて分析的に鑑賞・構想し、表現や紙面構成を工夫する力を身に付けさせたいと考えました。ICTを用い生徒に次の①～⑦の手法を提示し、従来の指導に加え、より効果的な指導を試みました。

- ① 「CB（クロームブック）で風信帖について調べ学習」：風信帖に関する語句を検索し、関連する画像や地図等を調べる。
- ② 「Jamboardで古典鑑賞」：個人、グループ、全体と段階を踏み風信帖を鑑賞し、意見を共有する。
- ③ 「古典の画像をCBで手本として利用」：拡大・縮小機能で臨書部分の細部を確認する。
- ④ 「Googleアプリケーションの『描画キャンバス』にて籠字・骨書き・筆脈線の色分けし記入」：レイヤーごとに表示・確認し、どのような筆遣いをしたのかを考える。
- ⑤ 「ペアで互いの揮毫動画を撮影・鑑賞」：協働し、揮毫動画を撮影・鑑賞することで、客観的に運筆の速度や抑揚・緩急を認識する。
- ⑥ 「範書動画を鑑賞」：自身の揮毫動画と比較検証し墨の含ませ方運筆の速度、用筆・運筆、筆脈を確認するなどの気付きを得る。
- ⑦ 「CBで作品を撮影し、ポートフォリオを作成」：作品や感想をデータで保管し、個人・全体で発表・鑑賞を行う。

本時は、「ペアで揮毫動画を撮影し合い、範書動画と見比べ、作品を完成させよう。」という目標を掲げ、一人一台端末CBを活用した授業展開を試みました。これまでの授業で生徒達は、自身の揮毫動画を撮影し、自己分析し表現に活かした経験があります。今回さらに範書動画と比較検証するという要素を加えたことで、特に用筆・運筆に新しい気付きを見いだしたと感想を述べる生徒が多くなりました。籠字は紙媒体でも実施することができですが、レイヤーを分けることで表示や比較が可能であり、細部の確認も明確なため、臨書の合間に表示を変えながら分析し、スムーズに活用しているようでした。机間指導を重視したいので、タイムキープアラームや学習内容をあらかじめパワーポイントで制作して前方で表示しておき、生徒一人一人に声かけができる機会を増やせるよう工夫しました。

「今回の改訂では、コンピュータ等の一層の普及や多機能化、新たなソフトウェアの開発などの可能性を踏まえ、積極的に活用して、表現及び鑑賞の学習の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫することとし、更に多様で効果的な活用によって、生徒の学習を深められるよう配慮することを求めている。」

※学指要解芸術編三七〇頁（第三章一 指導計画作成上の配慮事項 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いに当たっての配慮事項 情報機器の活用等に関する配慮事項）

三 研究授業を終えて

授業をご観覧頂いた先生方よりたくさんのご意見・ご指導・ご質問を頂戴し、私が想定していなかった視点や指導法に気付かせていただき、大

変勉強になりました。ご指摘頂きましたとおり、CBの古典画像を手本として半紙に臨書する場合、一回り手本が小さく感じられます。原寸大の手本ではないと難しいか、生徒の現状に合わせながら改善していきたいと思います。また、授業用に購入した個人用筆を利用し、様々な古典臨書や創作に取り組ませていますが、今後ICTも含め様々な教材を効果的に活用できるよう、今後も試行錯誤を繰り返し、啐啄同機を逃さず、より効果的に授業展開できるよう研鑽を重ねて参ります。

四 結びに

プライベートな事で大変恐縮ですが、娘が高校一年生になり、中学生の時からずっとマスクを身に付けて過ごしてきたことで気になった会話が 있었습니다。「ずっとマスクで顔を隠して過ごしてきたから、マスクを外して学校に行く日が来るのが心配だなあ。」

今回、県研究授業の指導案を、多くの先生方のご尽力で冊子にしていたことが叶いました。心よりお礼申し上げます。「冊子に戻って嬉しかった！」とお声かけもいただきました。有り難いことに、巻頭に「はじめに」を掲載していただけたとのこと、コロナ禍の影響でこれまでの「あたりまえなこと」があたりまえではなくなった今の高校生活を頑張っている生徒達に、書道の授業を通して少しでも「生きる力」を養ってもらえないかと、ICTを書道の授業で活用しはじめた想いを書かせていただきました。まだまだ経験不足で、成功したことよりも失敗の苦い思い出の方が多く、辛いところではありますが、スマートフォンを自在に駆使する娘の隣で、「書道の授業今日も面白かった」と書道をますます身近に楽しんでくれる生徒が一人でも多く増えることを願い、教材を試行錯誤する日々です。



授業実施の実現にあたり、多大なるご尽力を頂きました浦崎先生、伊東先生、宮越先生、福嶋先生、その他関係の先生方に心よりお礼申し上げます。

